

公民館クラブ紹介 ⑩

胸の高鳴りを味わう

陶芸クラブ

クラブ活動中に取材に伺うと、クラブ長の西川宗保さんは、次のように話してくれました。

「陶芸の楽しさは、一つに創造の喜びがあります。粘土をこね、器の形をつくる手の感触は、土の持つ温かみと安堵感が感じられ、童心に帰ることができます。」

特に窯開けの時は、どんな作品ができたか期待で胸が高鳴ります。火力の作用により思ってもみなかった作品になることもあり、その時のうれしさは格別です。

反対に自分の描く通りに仕上がりえない難しさもあり、そこに面白さがあります。

次はどんなものを、どんな形で、どんな色にと、想像がふくらみます。

もう一つは、趣味と実益を兼ねるということです。自作

の器で飲むお茶は、一味おいしく感じられます。また、花瓶や置物など心のこもった贈り物ができるのもうれしいことです。手作りの贈り物は、

心からの贈り物として、喜んでもらえるのではないのでしょうか。

クラブ員は17名で、毎月第2・第4土曜日の午前9時から活動をしています。

うち、男性は3名と少ないので特に男性の仲間を募っています。

指導は、鈴木義雄さん（光町在住）があたっており、温厚な先生でクラブ全



きょうの出来ばえは上々、土のぬくもりが伝わってきそうです

体が明るい雰囲気に含まれています。

毎年一回、日帰りの見学旅行も行っていて、楽しみのひとつとなっているようです。

活動歴は12年、新しくクラブ員となった人も多くいます。

すぐ、指導が受けられますので、ぜひ仲間になつてはいかがですか。

問い合わせは、西川さん（☎0478）まで。

文芸

俳句

父の声子の声交じる追離かな 鈴木 南知

遠き耳近く寄せ合い日向ぼこ 山口 一秋

佗助や手づから植へし亡妻の花 行方はじめ

庭石も叩きて跳ねて玉霰 戸村 静華

熱燗を酌めば戦時の酒豪かな 伊藤 喉霜

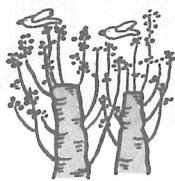
遠ざかる人見送りぬ寒の月 鈴木 草庵

風花や日光街道杉高し 若梅あやめ

研ぎすます寒三日月の影に佇つ 海保 きみ

熱燗や男の友情垣間見る 藤代 ゆう

石路の絮あるかなきかの風が見え （選者）土屋 栗水



短歌

松葉ガニふたたびケースに置きて媼老人ホームに帰りて行けり 八角 三枝

掃除する中古車のシートに拾ひたり知らぬ家族の写真一葉 中越美代子

教室に子が捨てゆきし鉛筆のちびしをもちて歌しるしをり 土屋 五六

ブッシュホンおしつ受話器とる幼おじぎをしつ通話まねる 鈴木 やす

勤め終へけさ縁側にあぐらるる夫の背にさす冬日やはらに 伊藤 文子

琴平の境内に並ぶ苗木屋でキンカン一本値切りて買ひぬ 秋葉 とく

賜ひたる手編みのソックスほつかりと朝飼をつくる足をつめり 渋谷 静子

餌欲しと巣箱ゆすりて呼びたてる栗鼠の眼のひたに輝く 西山満里子

冠雪の富士が窓より望まるる伊豆の温泉に憂きを流しぬ 吉岡 信子

癒えしのち生れ来しうまご抱く夫がどんぐりの歌口ずさみ 斎藤つね子